様式4

令和8年 10月 21日

令和8年度　学校関係者評価及び改善策

（ 中間・最終 ）　　中学校区 校番 19 学校名 呉市立音戸中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標，指標の設定の適切さ	A	・学校教育目標達成のための具体的な目標，及び指標となっており，適切である。 ・先生方が，生徒のことを大切に思っていることを感じました。頑張っていただきたいです。 ・適切だと思います。
目標達成のための方策の適切さ	A	・目標に対して具体的かつ効果的な方策となっており，適切である。 ・適切だと思います。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	・現状を詳細に分析した上での自己評価となっており，適切である。 ・適切だと思います。
今後の改善策（案）の適切さ	A	・結果分析に基づいた改善策となっており，適切である。 ・適切だと思います。
その他	・いじめって何だろう？と改めて考えさせられました。学力のことは個人差があり分からないが，ICT機器を使って自分なりに調べるのはとてもいいことだと思います。 ・先生方には，課題が多岐にわたりその都度より良くするために分析と改善をしていただき感謝です。年度ごとに生徒のカラーが違っていると思いますが，学力的な課題について引き続き取り組んでもらいたい。	

※ 評価は，A（とても適切），B（概ね適切），C（あまり適切でない），D（まったく適切でない），N（分からない）

学校関係者評価を受けての今後の改善策	○確かな学力 ・小中一貫教育研究授業で，生徒の実態に合わせた教材の提示や発問に主体的な活動を生み出す授業づくりを学んだ。今後，研究授業を中心に，授業モデルを基にし，生徒が主体的に課題解決に取り組む授業づくりを推進していく。 ・2学期に授業改善に向けて音戸中（国語科）と音戸小で研究授業を予定している。また，指導主事を招聘した授業参観を数学科，社会科，家庭科，英語科で実施する。 ○豊かな心・健やかな体 ・学校運営協議会のネットワークを活用し，地域活動の把握を行い，生徒へボランティアを参加を呼び掛ける。 ・計画的な教育相談や日常的な会話の中で生徒のサインに気づき，つなぎ，情報を共有による組織的な生徒指導を行っていく。 ・生徒会を中心に学校行事への参画意識を持たせ，主体的な活動となるよう働きかける。頑張ったことを評価し，やればできるという実感や自己肯定感を醸成していく。 ・運動の楽しさや喜びを授業や部活動で実感できる場面を設定し，結果だけでなくその過程も評価していく。 ○安心・安全な学校 ・防災教育については，地元の講師を招聘し，地域で起こりやすい災害について知ると共に，自分の命は自分で守るための行動や情報収集について学んでいく。 ・教職員による日頃からの声かけや見守りを行い，「いじめ」への積極的認知と早期対応を意識し，情報を共有しながら組織的に取り組んでいく。 ○業務改善 ・教職員の困り感を共有し，組織的に改善していく。合わせて，部活動休養日と定時退校日を徹底していく。 ・職員室では互いに話しやすい雰囲気ではあるものの，何のために行っていくかの共有や，それぞれの役割を再確認し，働き甲斐が感じられる職場づくりを進めていく。